

第二次大戦サイパン戦の海事遺産トレイル

WORLD WAR II MARITIME HERITAGE TRAIL BATTLE OF SAIPAN



ASSAULT VEHICLES

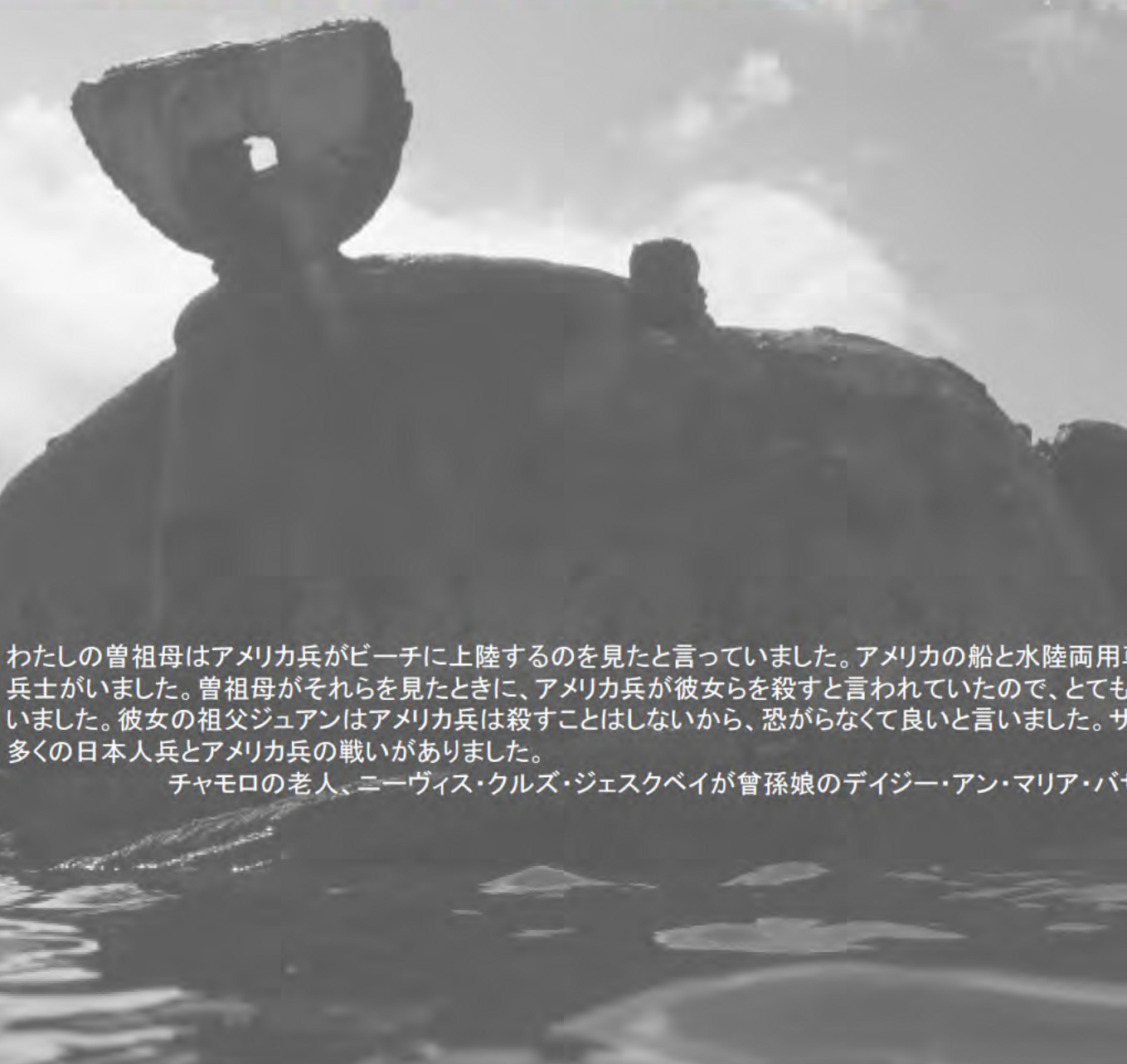
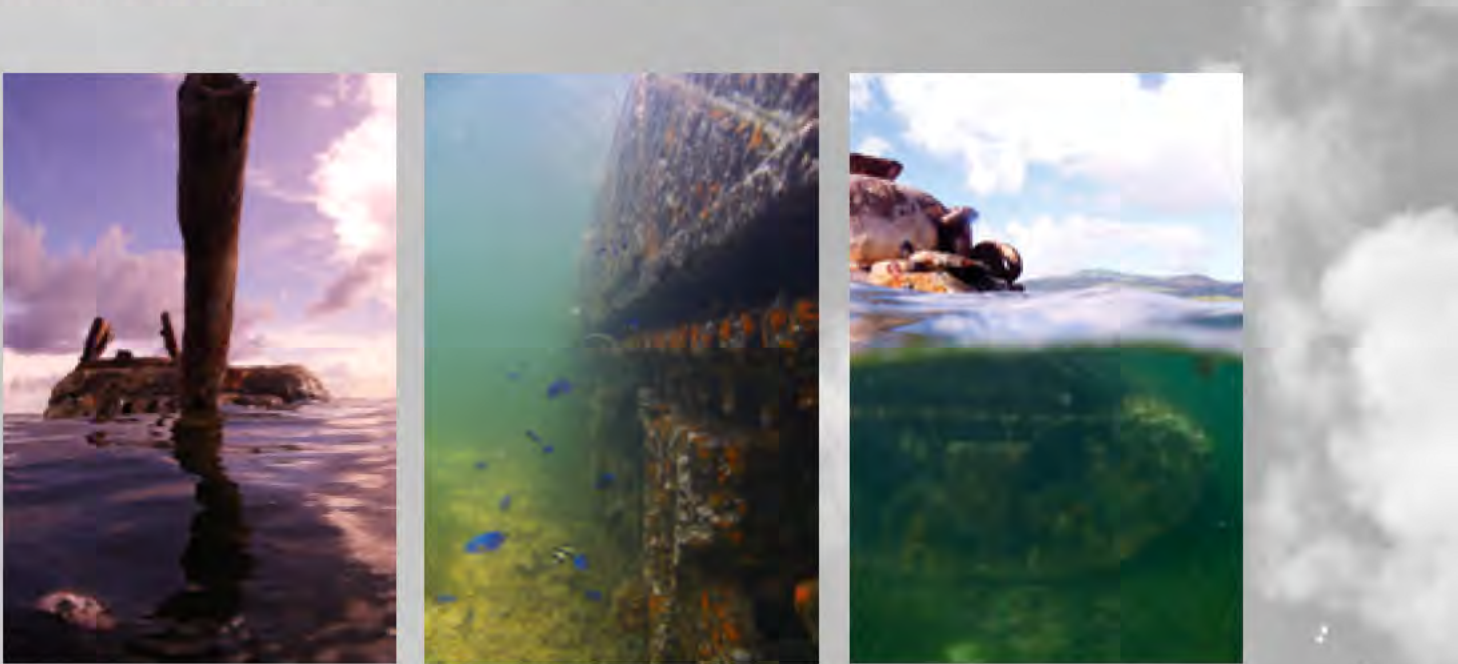
Top: ススペのM4A2 シャーマン戦車

Bottom: タナパグ環礁のLVT(A)-4 ランディング・ヴィークル・トラック



アメリカ軍シャーマン戦車

M4シャーマン戦車は第二次大戦中にアメリカ陸軍と海兵隊によって使用された主要戦車であった。旧日本軍の真珠湾攻撃によって、技術的にシンプルで信頼性のあるM4と表記される中型戦車が大急ぎで生産に入った。必ずしも最も優秀で、パワフル、十分に武装された戦車として世界で運用されたわけではないが、アメリカ軍の標準型戦車であった。大量生産が可能であって、このためM4シャーマン戦車は「質ではなく、量で勝った」と言われる。M4シャーマンはアメリカ軍によって1942年から1955年まで運用された。



わたしの曾祖母はアメリカ兵がビーチに上陸するのを見たと言っていました。アメリカの船と水陸両用車でビーチに来た兵士がいました。曾祖母がそれらを見たときに、アメリカ兵が彼女らを殺すと言われていたので、とても怖かったと言っていました。彼女の祖父ジュアンはアメリカ兵は殺すことはしないから、恐がらなくて良いと言いました。サンアントニオでは多くの日本人兵とアメリカ兵の戦いがありました。

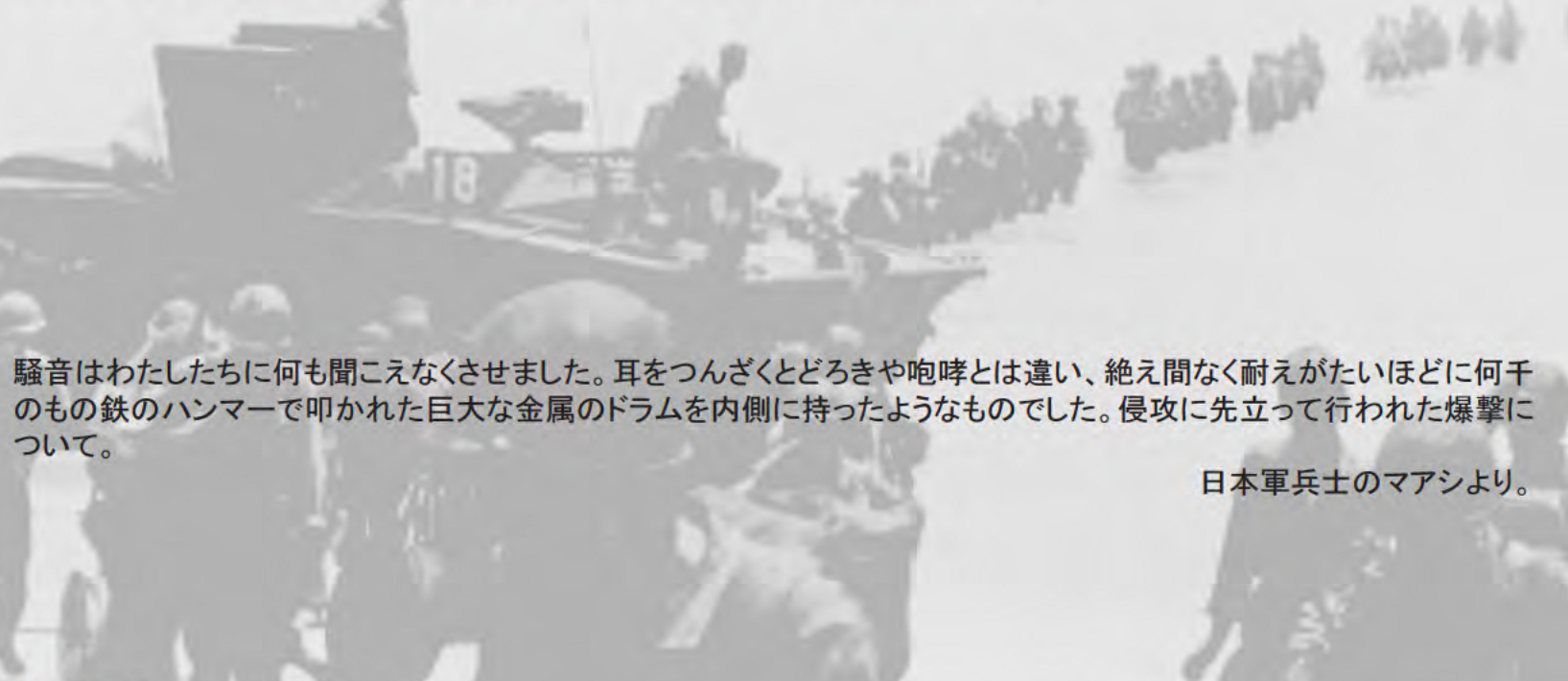
チャモロの老人、ニーヴィス・クルズ・ジェスクベイが曾孫娘のデージー・アン・マリア・パサ・リザマに語る。

U.S. LVT (A)-4

よく保存された上陸用車両の残骸が、岸から1,100mほどのタナバグ環礁の飛行艇着場のすぐそばにある。この上陸車両はLVT (A)-4と特定されており、1-3mの砂地の海底にのこっている。もとは船から海岸への物資輸送を意図していたが、攻撃性を備えた武装した車両へと急激に改良された。このタイプはアンブトラック、アムトラック、アムトラクとして知られるが、これはアンフィビアス・トラックの略称である。

アメリカの太平洋ソロモン諸島作戦では、これまでの車両やポートが行動できなかったところを移動でき、兵士や物資の輸送性能を持つ新たな車両を必要としていた。これらの車両は水上を移動できるばかりでなく、浅瀬や裾礁を乗り越える能力を必要とした。この問題の解決となったのが水陸両用車、またランディング・ヴィークル・トラック(LVT)として知られる乗物であった。

7つのLVTのモデルが生産され、第二次大戦中に太平洋で使用された。これらのモデルのなかで、LVT2、LVT(4)、LVT(A)-1、LVT (A)-4が北マリアナ諸島で使用された。フード・マシーナリー社は75mm榴弾砲塔を備えたLVT (A)-4を開発した。初期のモデルはリング固定式の50口径の短機関銃を一门装備したが、後に二つの軸固定式の30口径短機関銃に変わった。加えて、ポール固定式の30口径短機関銃を無線士用の座席に装備した。これらの改良は「海兵隊モデル」として知られるがデザインそのものに変更は加えられていない。新たに投入された車両は兵士に歓迎されたが、大きな欠点があった。砲塔は防護されていないため、敵の手榴弾、迫撃砲、小火器などに無防備であった。結果として、アメリカ軍の乗員はサイパン戦に投入の準備のために、さまざま現場での合理的改良を加えた。これらの改良には50口径の短機関銃の周囲に防護板を張り巡らし砲撃手を保護すること、同軸30口径短機関銃を無線士用の座席の前面に追加、防護板を前部砲塔に追加。これらの改良は、乗員と兵士の生存率を上げることを目的にしたものであった。


 参考文献

Arnold, W.S., 2010, *Investigations in Invasion Innovation: The Archaeological and Historical Study of a WWII Landing Vehicle Tracked in Saipan*. MA Thesis, Flinders University, Department of Archaeology.

Bailey A.D.M.U.R., 1976, *Alligators, Buffaloes, and Bushmasters: The History and Development of the LVT through World War II*. HyperWar Foundation.

Barker, D.L., 2004, *Hitting the Beaches: The First Armored Amphibian Battalion in World War II* (United States Marine Corps) Lakeville: First Armored Amphibian Battalion.

Bartholomees, J.B., 1948, *Operations of the 773D Amphibian Tractor Battalion (Attached to the 27th Division) in the Operation on Tanapag Plains, Saipan, 7-8 July 1944 (Western Pacific Campaign)*. The Infantry School.

Caporale, L.G., 1984, *Prelude to Victory: The Marianas*. Marine Corps Gazette, 68.

Chapin, J.C., 1994, *Breaching the Marianas: The Battle for Saipan*. Washington DC: Historical Branch, G-3 Division, Headquarters, U.S. Marine Corps.

Croizat, J.T. 1953, *The Marines' Amphibian*, Marine Corps Gazette, 37.

Goldberg, H.J. 2007, *D-Day in the Pacific: The Battle of Saipan*. Indiana University Press.

Grove, E., 1978, *World War II Tanks*. Orbis Publishing.

Humble, R., 1977, *Tanks*. Weidenfeld and Nicolson.

McKinnon, J. and T. Carrell, 2011. *Saipan WWII Invasion Beaches Underwater Heritage Trail*: Ships of Exploration and Discovery Research, Inc.

Mesko, J. 1993, *AMTRACS in Action*. Squadron/Signal Publications, Inc.

Pacific STAR Young Writers Foundation Saipan, 2004, *We Drank Our Tears: Memories of the Battles for Saipan and Tinian as Told by Our Elders*. Pacific STAR Young Writers Foundation Saipan.

Rottman, G. L., 2004, *Saipan & Tinian 1944: Piercing the Japanese Empire*. Osprey Publishing.

Russell, S., 1994, *Operation Forager: The Battle for Saipan*. Division of Historic Preservation, Saipan, Commonwealth of the Northern Mariana Islands.

SEARCH, Inc., 2008, *Archaeological Survey of Tanapag Lagoon Saipan, Commonwealth of the Northern Mariana Islands*. Submitted to the CNMI Department of Community and Cultural Affairs, Division of Historic Preservation.

日本軍兵士のマシより。

6戦車大隊がマリアナ海域のために準備されたが、2大隊、第二、第四海兵師団によってサイパンで使用された。戦車は最初の侵攻では使用されなかったが、もとは起伏の激しいサイパンを横切るアメリカ軍の攻撃を後押しするサポートのために運用される予定であった。水陸両面の侵攻の朝、戦車は浅い裾礁を海岸に向けて自力で出撃。2、3の車両は高潮、日本軍の攻撃、銃撃で犠牲になったが、戦車のその火力でビーチでの戦いに優勢をもたらし、アメリカ軍の士気をあげた。

残る戦車を見学する

3つの戦車が島の南西のスベとチャラン・カノアビーチから泳いで行ける距離にあります。半分は水に浸かっており、砲塔とデッキの一部が水にあらわれており、岸からもその姿がみえます。このため、戦車は写真撮影、ちょっとしたアドベンチャー、岸からのシュノーケルやダイビングに最適です。

全ては環礁の内側の砂地の浅瀬に沈んでいます。これらの砂地は様々な海藻類に部分的におおわれています。戦車は周囲とは異なった生態系を育んでいます。多くのクジャクスズメダイ(Pomacentrus pavo)が戦車の外側でプランクトンをついばんでおり、一方では黄色い舌を持つキイロハギ(Zebrasoma flavescens)が戦車の隙間に小規模な群れをなしています。縞模様のキョットフィッシュが戦車の下に開いた大きな穴にいるのを見ることができ、様々な種類のバタフライフィッシュ(Chaetodon spp.)もいます。斑点のあるアラレキンチャクフグ(Canthigaster solandri)が時々戦車の基部で見ることができ、大抵はペアで移動しています。

タンク1とタンク2は共にM4A2ドライ型で75mm砲を搭載しています。タンク1は最も北側約120mの沖合、15 9′ 44.31″N, 145 42′ 14.14″E (55P 0360758N, 1676687E) (WGS 84)にあります。タンク2はタンク1のすぐ南側、岸から約450mの沖合、15 9′ 44.35″N, 145 41′ 58.56″E (55P 0360293N, 1676694E) (WGS 84)に位置します。

タンク3はタンク2の南、175mの沖合、15 9′ 18.58″N, 145 41′ 53.26″E (55P 0360130N, 1675903E) (WGS 84)に位置します。M4A3ウェット型は、75mm砲を搭載しています。ウェットの表記は砲弾を濡らしたまま収納できることに由来します。ドライ型の戦車では砲弾を乾いた容器に収納ため、穴が開いたり、着火したり、爆発する可能性があります。戦車のガソリン燃料システムもあるため、この欠点は「トミークラッカー」や「ロンソライター」と揶揄されました。この欠点を無くすため、アメリカの開発者はグリコール液料を入れたウェット型の砲弾収納を開発、二次発火や不発の危険を減らしたのです。

劣化と人間の影響により全ての戦車の価値が損なわれてきました。タンク3の75mm砲は深刻なダメージを受けており損壊しているようです。これは遊泳者が砲身に立ち上ったり、揺らしたりすることによるようです。これらの戦車を訪れるにあたっては、戦車は壊れやすい史跡であり、連邦法によって保護されていることに注意してください。砲身を足場としたり、ぶらさがったりしないようにしてください。



LVTは、裾礁が広がるマリアナ地域におけるアメリカ軍の作戦と行動に不可欠であった。1944年6月15日の朝、LVTは裾礁（岸から約900m）のLSTから発進、各上陸地点に向けて編隊を組んだ。荒れた海がいくつかのLTVを岩礁で転覆させたが、大部分は接岸を果たした。LVTはビーチに上陸できるようになっており、さらに0-1ラインと呼ばれる島の内部182mまで移動できた。これは浜に続いて上陸する部隊の障害になることを避ける役割も果たした。しかしながら、サイパンの起伏の多い地形がLVTにとっての障害となり兵士を降ろした大半の車両は重火器にさらされた。

最初の攻撃後、司令官はLVTを物資供給、負傷兵の傷病船輸送、島内の物資供給、水中破壊工作部隊の支援、銃火器戦、岩礁で座礁した上陸車両の回収など様々な用途に用いた。

LVT (A)-4を見学する

LVT (A)-4は広い砂地、大小の岩礁に囲まれて、15 14′ 24.58″N, 145 44′ 10.78″E (55P 0364288N, 1685292E) (WGS 84)に位置します。LVTは比較的小さいサイズながらも、垂直構造や開いた穴が、この残骸を魚にとっての格好の岩礁としています。残骸の西端の暗い反りかえりが夜行性のハナミノカサゴ(Pterois volitans)に日中影となってシェルターの役目を果たします。この魚は夜間小魚な甲殻類を捕食し、獲物を捕るために華麗なヒレを使います。鳥鼻の名にふさわしいクギベラ(Gomphosus varius)はこのLVTでよく見かけることができ、岩との間をすばやく泳いでいるのをみれます。大型の青緑のクギベラはオスで、メスは小さく茶色をしています。

LVTの尾部は砂地に埋まっており、大半の部品は消失し、分解しています。最も確実に無くなっていると分かるのは、デッキ、トラック、エンジンルームを横切る防護板です。基本的に車両だけで空であり、75mm榴弾砲、火器管制、砲塔管制、無線などは取り払われてしまっています。まだ残っているのは操縦士の座席、操縦桿、エンジンゲージを含む計器類、星型エンジンと2つのマフラーです。トランスミッションのホースやその他の残骸が積まれており、無線士の座席などもあります。現場での合理的改良の痕跡としては、50口径短機関銃のスカーフリングの周りに加えられた防護板(10.05cm)見られます。さらにはサイパン戦まで採用されなかった同軸30口径短機関銃が無線士の座席の前に加えられています。

残る機体を保存する

沈没船、航空機の残骸やその他水中遺産は陸上の史跡と同じように守られます。それらは、かけがえのない資源であり、船舶や飛行機は毎日のように沈んでいますが、大戦中の航空機や駆潜艇ではありません。これらの遺跡が重要であるのは、歴史の詳細を語るものであり、戦時下の人間について語るものだからです。沈没船、航空機、その他の乗物を含め、全ての水中遺跡はCNMI Public Law 3-39のもとで保護されます。この法律は連邦政府が所有または管理する土地や海底に位置するあらゆる考古学上の遺跡を不法な破壊、発掘、遺物の持ち去りから保護します。連邦の海域にある史跡沈没船は自然資源同様に保護されているため、次なる世代は遺跡を訪れ、学び、私たちの特殊な水中遺産を享受するかもしれません。

This material is based upon work assisted by a grant from the Department of Interior, National Park Service. Any opinions, findings, and conclusions or recommendations expressed in this material are those of the author(s) and do not necessarily reflect the views of the Department of Interior.